

平成 22 年 1 月の解説（週間天気予報）

【1月の天候状況】

上旬はほぼ冬型の気圧配置が続き、北日本から西日本の日本海側では曇りや雪の日が、太平洋側では晴れの日が多くなりました。5 日から 6 日にかけて低気圧が発達しながら本州付近を通過し、北日本では大荒れの天気となりました。中旬の初めは全国的に天気がぐずつき、その後は冬型の気圧配置が強まり、北陸地方を中心に大雪となりました。旬末は移動性高気圧に覆われ全国的に晴れました。下旬は 2～3 日おきに低気圧が日本付近を通過して冬型の気圧配置となりました。そのため北・東日本の日本海側では曇りや雪または雨の日が多くなり、その他の地方は天気が周期的に変わりました。

月を通しての日照時間は北日本で平年よりかなり少なくなりましたが、その他の地方では多くなり、南西諸島ではかなり多くなりました。降水量は北・東日本の日本海側で平年より多くなり、東日本の太平洋側と西日本、南西諸島は少なくなりました。月平均気温は北・東日本で平年より高くなりました。

【1月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は全国平均では例年（注）より 7 ポイント高い 79%でした。全国的に例年に比べて高く、東日本から近畿、四国地方と南西諸島で 8 から 12 ポイント高くなりました。最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、例年に比べて東・西日本で 0.1 から 0.4 小さく、全国平均は例年より 0.2 小さい 2.0 でした。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は北日本から関東・甲信、東海、近畿地方で例年より 0.2 から 0.4 小さくなりましたが、九州北部・南部地方では 0.2 と 0.4 それぞれ大きくなりました。全国平均では例年より 0.1 小さい 2.0 でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【3月の週間天気予報の利用にあたって】

3月の気温は地方によって大きく違い、月平均の平年値では那覇では 18.6 、札幌では 0.1 と、日本の中で 20 近い差があります。そして各地方とも次第に暖かくなりますが、気温は単調に上昇するわけではありません。大まかに言って、低気圧が近づいてくると暖かい南風が吹き込んで気温が上がり、通過した後には北からの冷たい空気が流れこんで気温が下がります。このような寒暖を繰り返しながら次第に気温が上がって行きます。日々の気温の変動は大きく、4月5月のような暖かさから一転して、1月2月の寒さとなることもあります。3月の週間天気予報の利用の際は、天気とともに気温の変化にも留意いただき、健康管理等にご利用下さい。